

京丹波町公共事業再評価審査委員会

第1回会議（会議概要）

日 時 平成26年 2月 6日（木）
午前9時30分～11時40分
場 所 京丹波町役場 議場

出席委員 8名（欠席者1名）

（*設置要綱第4条第2項の規定により、本委員会が成立）

1 開 会

- ・事務局挨拶
- ・委員紹介

2 委嘱辞令交付

- ・委員委嘱（代表受領）：山下典子委員

3 町長挨拶

- ・町長代理 畠中副町長挨拶

4 委員長、副委員長の選出

- ・委員の互選により選出
委員長：白石克孝委員、
副委員長：吉川文則委員
- ・白石委員長、吉川副委員長挨拶
- ・町担当者自己紹介

5 議 事

（1）事業の再評価について

- ・事務局から、審査委員会設置要綱、再評価実施要綱、事業再評価の審査手順と内容、審査依頼書について説明

（主な意見・質問等）

特になし

（2）対象事業（丹波・瑞穂 統合簡易水道整備事業）の概要について

- ・担当課から事業概要について説明

（主な意見・質問等）

・委員

コスト縮減についての説明をいただきたい。

・担当課

以前の主流は塩化ビニール管（VP管）でしたが、現在は耐震性や強度を考慮

し、ポリエチレン管やGX管（鋳鉄管）を使用しています。

管材としては少し高額ですが、ポリエチレン管等の使用は、掘削幅が縮小でき作業性が良くなります。また管の強度が上がり、国道や府道の占用許可が得られる掘削深は、それまで最低1.2mであったものが、最低0.6mの浅い埋設でも許可が得られ、掘削費用や維持管理費用がかなり縮減できています。

・ **委員**

事業所や一般家庭への配水能力は十分確保されているのか。

・ 担当課

平成30年度を見据えた給水人口と給水量を算定し、それに対応できる水源を確保しています。

給水量につきましては、一般家庭はもちろん、団地で見込まれる量、事業所の要望量及びテクノパーク（工業団地）での給水量も含まれています。

当然、これらへの配水能力は担保されています。

・ **委員**

本事業に直接関係は無いが、委員として過去に再評価をした「和知簡易水道事業」や「町道235号線」の進捗状況はどうかを聞かせていただきたい。

・ 担当課

「和知簡易水道事業」は丹波・瑞穂統合簡易水道整備事業と同じく、平成28年度の事業完了に向け、順調に進捗をしています。

平成23年度の再評価時にも、コスト縮減や膜ろ過設備材料を担保する必要があるのではというご意見をいただいております、そのご意見を尊重した中で事業を進めています。

・ 事務局

「町道235号線」は、3月中頃には南丹市まで舗装工事が完成する予定となっていますが、南丹市施工の整備が遅れており、全線開通には少し時間がかかる模様です。第3者として、担当である土木建築課を見ますと、委員会でのご意見を尊重し、事業を推進していると見えています。

・ **委員**

費用便益比の算定にある「感度分析」とは何か。こういった作業なのか。

・ 担当課

報告書で残事業の費用便益比の数値が1.5を超えない場合には、「感度分析」を行なうという規定があります。

水需要が多くなるか少なくなるかによって、便益比は大きくかわります。計画給水人口はあくまで予測数値であり、この数値が仮に目標を下回った場合でも、便益比が1.0を超えるかどうかを分析する作業を「感度分析」といいます。

・ **委員**

「感度分析」を行うのは残事業の場合だけとなるのか。

・ 担当課

基本的には残事業だけという決まりはありますが、全体事業で行っても特に問題はありません。

・委員

ダムの水質を加味して高度処理として活性炭設備を建設するとあるが、どういった水質状況（結果）となった場合に実施をするのか。

・担当課

ダム原水の水質検査は町でも京都府でも実施をしています。高度処理施設の判断は、「臭気」が一番の問題となります。今後も水質検査を実施する中で、施設の必要性を検討してまいります。

処理方法にはオゾン処理等がありますが、最低でも活性炭処理は必要であろうとの認識をしています。

・委員

活性炭と別の処理を組合せた処理方法もあるとのことであるが、約5億円とはどのような施設を考えているのか。今後、事業費が増加することもあるのか。

・担当課

高度処理費用は、粒状活性炭での処理を見込んでいます。オゾン処理の認可はいただいておりますが、将来の維持管理費用が高額になるとも聞いており、現時点では事業費に計上していません。

今後、ダム水の富栄養化による水質悪化も予測されますが、適切な施設を判断するための調査設計を予定しているところです。

・委員

鑄鉄管の耐用年数は、何年か。

・担当課

40年です。

・委員

無効率（漏水率）10パーセントの数値は大きくはないのか。他の自治体の実態は調査したのか。

・担当課

基本的に給水人口が5万人未満の水道事業では、目標として有効率95パーセント以上を確保するようにとの指導はあります。

中小の水道事業の実態は、平均的に90パーセント以下となっており、大阪市や京都市など大都市は90パーセントから95パーセントとなっています。

どうしても人口が少ない水道事業は、水道管路に張り付く家屋が少なく投資効果も低いため、水道管の更新が進まず、漏水が増える傾向となります。

今回の有効率は高い数値かもしれませんが、町として漏水を少なくしようとの思いもあり、90パーセントとしました。

・委員

今後の事業において、用地取得の計画は無いとのことであったが、既に配水管が埋設してある場所に埋設するのか、別の町有地等に埋設していくのかどうか。

・担当課

大規模な用地取得はありませんが、加圧ポンプ場等で少しは用地買収が必要となる場合があるかもしれません。

・委員

用地買収が非常に困難となり、配水管の埋設場所を変更せざるを得ない場合も想定されるため、早い時期に地元の了解を得ておく必要があるのではないか。

・担当課

ご意見のとおりであります。早い時期に判断し、事業を進めてまいります。

・委員

費用の現在価値化（P 51）の表で、平成65年度から費用がでている理由はなにか。

・担当課

平成65年度からの数字は、更新費用です。

・委員

4年間の更新内容は何か。

・担当課

この表はあくまで残事業に係る費用であり、全体事業では全て更新費用が計上してあります。

3 その他

・今後の日程について

第2回：2月20日（木） 午前9時30分から 【現地踏査】

第3回：3月 6日（木） 午前9時30分から

4 閉会

・吉川副委員長挨拶

京丹波町公共事業再評価審査委員会委員名簿

役 職	委 員 名	現 職	備 考
委員長	しらいし かつたか 白 石 克 孝	龍谷大学政策学部教授	
副委員長	きっかわ ふみのり 吉 川 文 則	京丹波町区長会・会長	
委 員	うめはら よしのり 梅 原 好 範	京丹波町消防団団長	
	おおにし こうじ 大 西 弘 二	京丹波町教育委員会 教育委員長	
	おかもと ひさし 岡 本 久	京丹波町観光協会・会長	
	かたやま としあき 片 山 俊 明	行政書士 前再評価審査委員会 委員長	
	すみやま くにお 隅 山 國 夫	元町区長会理事 前再評価審査委員会 副委員長	
	たけうち かずよ 竹 内 和 代	京丹波町女性の会 副会長	
	やました のりこ 山 下 典 子	京丹波町女性の会 会長	

(敬称略、委員は五十音順)